

19:16 そこへ、夕暮れになって野ら仕事から帰ったひとりの老人がやって来た。この人はエフライムの山地の人で、ギブアに滞在していた。この土地の者たちはベニヤミン族であった。

17 目を上げて、町の広場にいる旅人を見たとき、この老人は、「どちらへおいですか。どちらからおいでになったのですか」と尋ねた。

18 そこで、その人は彼に言った。「私たちは、ユダのベツレヘムから、エフライムの山地の奥まで旅を続けているのです。私はその奥地の者です。ユダのベツレヘムまで行って来ました。今、主の宮へ帰る途中ですが、だれも私を家に迎えてくれる者がありません。

19 私たちをのろばのためには、わらも飼葉もあり、また、私と、妻と、私たちといっしょにいる若い者とのためにはパンも酒もあります。足りないものは何もありません。」

20 すると、この老人は言った。「安心なさい。ただ、足りないものはみな、私に任せ。ただ広場では夜を過ごさないでください。」

21 こうして彼は、この人を自分の家に連れて行き、ろばに、まぐさをやった。彼らは足を洗って、食べたり飲んだりした。

22 彼らが楽しんでいると、町の者で、よこしまな者たちが、その家を取り囲んで、戸をたたき続けた。そして彼らは、その家の主人である老人に言った。「あなたの家に来たあの男を引き出せ。あの男を知りたい。」

23 そこで、家の主人であるその人は彼らのところへ出て行って言った。「いけない。兄弟たちよ。どうか悪いことはしないでくれ。この人が私の家に入って後に、そんな恥ずべきことはしないでくれ。

24 ここに処女の私の娘と、あの人のそばめがいる。今、ふたりを連れ出すから、彼らをはずかしめて、あなたがたの好きなようにしなさい。あの人には、そのような恥ずべきことはしないでくれ。

25 しかし、人々は彼に聞こうとしなかった。そこで、その人は自分のそばめをつかんで、外の彼らのところへ出した。すると、彼らは彼女を犯して、夜通し、朝まで暴行を加え、夜が明けかかるころ彼女を放した。

26 夜明け前に、その女は自分の主人のいるその人の家の戸口に来て倒れ、明るくなるまでそこにいた。

27 その女の主人は、朝になって起き、家の戸を開いて、旅に出ようとして外に出た。見ると、そこに自分のそばめであるその女が、手を敷居にかけて、家の入口に倒れていた。

28 それで、彼はその女に、「立ちなさい。行こう。」と言ったが、何の返事もなかった。それで、その人は彼女をろばに乗せ、立って自分の所へ向かって行った。

29 彼は自分の家に着くと、刀を取り、自分のそばめをつかんで、その死体を十二の部分に分けて、イスラエルの国中に送った。

30 それを見た者はみな言った。「イスラエル人がエジプトの地から上って来た日から今日まで、こんなことは起こったこともなければ、見たこともない。このことをよく考えて、相談をし、意見を述べよ。」

聖書の中でも最悪な出来事のひとつがここに記されています。現代社会でも醜く残酷な出来事が後をたたく、様々な報道を見聞きしますが、神様はそのような現実から目をそらすことがないのです。

この一連の出来事は、イスラエルの歴史で実際にあった、ベニヤミン族と残りのイスラエルとの戦いについて記し、その原因についても言及しているのです。人間の愚かさ、残酷さが表れています。

この老人は親切ではありましたが、娘を差し出すとは全く本末転倒な解決方法です。またそばめの夫も女性の安全を気にかけていないようすがわかります。さらには遺体を切り刻むということで告発するのは、非人間的であるばかりか、神の律法を全く無視したやり方です。

士師記のテーマのように、神を無視して自分の判断で歩み続けるときに、人間はどこまで墮落するのがよく理解できます。私たちは常に警戒を怠らずに、主のみこころに従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

